

国労水戸

国労水戸地方本部
 水戸市中央1-1-11
 ENYビル2F
 029-221-4008
 発行責任者 塚原良雄
 編集責任者 坂本公則

総団結で闘いぬく

第170回拡大地方委員会を開催



水戸地方本部は3月7日(土)、第170回拡大地方委員会をいわき市内で開催し、第66回定期大会以降の運動を検証しJRに働くすべての労働者の労働条件改善、2015年春闘勝利、安全・安定輸送と健全な労使関係の確立、そして何よりも喫緊の課題である組織の強化・拡大に向け目標達成に全力をあげることが全体で確認しました。

塚原委員長は委員会の挨拶で、昨年12月に2名の仲間を迎えたことで組織の活性化につながった。この流れを継続し、目標達成に向け全組員で奮闘しようと呼びかけました。

多くの委員からは、職場で組織拡大の討論を継続しているが成果に結びつかない。4月の新採獲得へ向け

創意工夫した取り組みを図る。原発事故が収束していないなか、行政主導型推進は問題がある。2015春闘は職場や地域から闘いを構築し満額獲得に奮闘したい。JR三島・貨物問題は構造的矛盾解決が必要で、労働者に転嫁するのはおかしい。JAL不当解雇撤回支援要請等が発言された。また、将来の「組織のあり方」について、慎重な議論が必要との意見も出された。

赤沼書記長が集約答弁

一、組織拡大について

本部指令1号による組織拡大に向けた取り組み強化が継続されている。地方本部は組織の10%拡大目標に向け全力をあげる。今後、予想される組織減少も視野に入れ各ゾーン目標に責任を持つこととする。4月4日(第8回全支部・分会・書記長会議の開催、6月13日・14日(第12回職場活動家交流会)、6月・9月までを第3ゾーンとし9月に集約会議を実施する。

新規採用者の取り組みは、委員会以降に「申入れ」を提出し公平・公正な扱いを求めていきます。また、対策委員会を開催し具体的取組を意思統一を図る。

二、反合理化、安全・安定輸送について

「グループ経営構想V」限りなき前進」を発表し2年が経過した。特に本年は、検修外注化施策導入から3年目を迎え、出向先会社からの戻りの時期である。また、エルダー出向先労働条件改善もますます重要で、2010年の本社・本部間の団体交渉を踏まえ、出向先会社との交渉が構築できるか東本部との連携を強めて行きたい。3月24日、職場点検プロジェクト会議を開催し具体的な取り組みと改善に向け「水申1号」を提出する。また、4月1日から駅委託及び遠隔操作システムが実施予定されているが、関係機関と

また、厚生労働省労働政策審議会報告書にも触れ、年収1075万円以上、かつ平均給与の3倍超の希望者(アナリスト、コンサルタント、研究開発の業務など)では、「労働時間規制ゼロ」「8時間労働制破壊」「過労死促進」法案であり反対する考えを示し、対象要件を400万円台に適用することを狙い、将来は正規・非正規に関係なく全ての労働者に適用すると報告しました。



2015春季労働講座を狩野光昭いわき市議を講師に招き、「安倍政権の成長戦雇用が略・労働法制「改革」の狙い」と題し講演が行われました。

安倍政権が進めようとする労働法制改悪は労働者を物のように使い捨てる制度で、①労働時間の規制緩和で自由な働き方を実現する。②解雇の金銭解決で不当・違法解雇でも金銭さえ支払えば一方的に打ち切られる。③派遣労働・非正規労働の規制緩和を取り上げました。

三、2015春闘

国労は統一重点要求を掲げ3月18日回答指定日とした。連合茨城春闘総決起集会参加や、客貨一体の取り組みは国労中央総行動(3/9)、「原発のない福島を・県民大集会」(3/14)など開催され創意工夫した取り組みを展開して行く。

四、組織のあり方

先に中央委員会及び東本部委員会の議論を踏まえ、早急に判断をして行きたい。